

重症心身障がい児を支援するスタッフのスキルアップ研修会

特定非営利活動法人 あいの実

〒981-3217 宮城県仙台市泉区実沢字中山北 100-2

助成事業の概要

実施目的：訪問介護と児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護の通所施設の事業において重症児者支援を行っています。どの事業においても、喀痰吸引、人工呼吸器の使用など医療的ケアが必要な方がほとんどです。そのようなことを考えるとき、是非とも、自信を持って療育を行えるよう専門的な知識と経験を増し加える必要があります。そのスキルアップのため、ほぼ毎月、研修会を催しています。医療のみならず福祉制度やメンタルヘルスなど学ぶ内容は多岐にわたります。地域の福祉に貢献するパイオニアとしての自負心を持って歩んでいきたいと思えます。

今回助成いただいた資金を用いた研修会の時期と内容：

- 4/19 IPVについて
- 4/26 摂食嚥下障がい者の食事介助
- 6/18 カニューレ抜去時の対応
- 7/20 清拭と更衣介助
- 8/31 食事介助
- 9/28 腰痛予防
- 9/20 事例検討
- 10/9 変形進行及び拘縮の予防について
- 11/29 おむつ交換
- 12/27 筋緊張亢進の利用者様に関するレポート
- 2/15 災害時の対応について
- 3/7 褥瘡について

事業の成果

目的達成度：訪問介護、通所施設のスタッフとよく話し合いながら、重症児の支援に今必要な知識・技術を優先的に研修で学ぶようにしています。通常は訪問・通所と違った内容を学びますが、重症児の症状・環境などによく通じている医師の研修は訪問、通所どちらにも役立つ医療的ケアを含む情報となっていますので合同で学びます。いずれにしてもそれぞれが今持っている自分のスキルをさらにアップさせることができている。より質の高い介護や医療技術を身に付け、自信を持ってご利用者様の必要とされるサービスを提供しようと励むことができている。研修会は、良い意味でのプライドを持って歩むという個々のスタッフの意識改善にも役立っています。

得られた成果や課題：スタッフが一同に顔を合わせることによって、意思の疎通も滑らかになっています。お互いの良い点を認め合う機会ですし、自分と考えが違う部分があっても、それを納得、融合させる事ができるようになります。全員参加が望ましいですが、そうできないのが課題です。それで参加できなかった方のために研修会を録画して、あとでビデオ視聴により勉強していただくようにしています。また、学びたい分野はいろいろあるものの、講師となる先生たちの都合や教え手がいないことによってその分野での研修会を持ってないこともあります。

参加者の感想：例；IPV の研修の後「実際に IPV

を体験することができ、利用者さんの呼吸の状態をイメージできたことがとても良かったです。呼吸の安定は、利用者さんの健康の安定の土台だと感じました。」清拭と更衣介助の研修の後「自分では気を付けてやっているつもりが、例えば骨折の予防のために手をどう使うか等、何気なくやっていたことが注意すべきことだったりするので、考え方を変えたいと思いました。更衣は肩まわりを下げないと手の方がはずれなかったりするので、考えながら行う事の重要性を確認できました。」

■ 成果の広報、公表

研修に参加した方が「日本社会福祉弘済会」の助成によるものであることがわかるように、その旨掲示しました。また、あいの実ホームページ上において、「日本社会福祉弘済会」より助成があったことを載せています。成果の広報・公表に関しては、前記「事業の成果」の「参加者の感想」にあるようなコメントをホームページにも載せています。そのコメントを通して、研修会でどんなことを学ぶことができたのかある程度知ることができます。また学んだことで役立つ情報は、スタッフが積極的に親御さんに伝えます。そうすることで、あいの実としての目指すところや実際にすぐに役立つことをお伝えすることにもなります。真剣に重症児支援に取り組んでいることを感じ取っていただいているようです。あいの実は全国重症児デイサービス／ネットワークの一員でもあります。重症児支援に役立つ情報はネットワーク内で共有するようにしています。

■ 今後の展開

あいの実における研修会は、スタッフのスキルアップにとって大きな成果が上がっていることに

間違いありません。それで、これからも毎月、研修会を開催していきます。その時々、必要な情報を得ることができるよう、スタッフ間によく意思の疎通を図り、優先順位を定め、ふさわしい内容を決めたいと思います。とは言え、なにか枠にとらわれるのではなく、より一層様々な分野に目を向け、自分を養っていけるようにしたいと思います。加えて、経験ある人が新しい人をサポートできよう環境作りも整えていきたいと思えます。社会事情に目を向けると重症児は減るどころか増える傾向にあります。それで、あいの実として、しっかりとしたサポート体制を東北地方において、仙台において、さらにその輪を広げていきたいと思えます。また、個々のスタッフのスキルアップを図り、それぞれの障がい者に喜んでいただける介護サービスを行っていきたく願います。